



Title	現代ハルハ・モンゴル語の副動詞の副詞的用法
Author(s)	ナムダグ, ハグバジャブ; NAMDAG, Lkhagvajav
Citation	北方言語研究, 14, 65-78
Issue Date	2024-03-20
DOI	<a href="https://doi.org/10.14943/110529">https://doi.org/10.14943/110529</a>
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/92091">https://hdl.handle.net/2115/92091</a>
Type	departmental bulletin paper
File Information	05_Namdag.pdf



## 現代ハルハ・モンゴル語の副動詞の副詞的用法

ナムダグ ハグバジャブ  
(東京外国語大学博士後期課程)

キーワード：モンゴル語、副詞、副動詞、重複型副詞、文法化

### 0. はじめに

モンゴル語 (本稿で扱う「モンゴル語」とは現代モンゴル語ハルハ方言をさす) の副詞には文の状況語成分として動詞を修飾する用法と、修飾語成分として他の形容詞や副詞を修飾する用法がある。モンゴル語の副詞は種類が豊富で、その中には副動詞から派生する副詞が存在する。モンゴル語でよく用いられる副動詞接尾辞としては、次の14種類がある：**-n, -ž/-č, -AAđ, -tAl, -xAAr, -xAd, -xlAAr, -ngUUt (-UUtという異形態も存在するが以下では -ngUUt とする), -mAgc, -bAl (-vAl という異形態も存在するが以下では -bAl とする), -sAAr, -ngAA, -vč, -vAAs**。ただし、どの副動詞接尾辞から副詞が派生することが可能かについては明確な記述が見られず、またそれらの成り立ちや表す意味についての詳細な考察はされてきていない。そこで、本稿では副動詞から派生した副詞を対象にし、それらの形式や用法について考察を行う。

本論文の構成は次の通りである。まず、第1節で先行研究の記述をまとめ、問題提起を行う。次に、第2節で調査方法と調査結果を述べる。最後に第3節で考察を行い、第4節で結果をまとめる。

本稿の例文番号とローマ字転写<sup>1</sup> は特に断りのない限り筆者によるものとする。先行研究のグロス、日本語訳については特に断りのない限り先行研究に従うが、先行研究にグロス、日本語訳がない場合は筆者がこれを付けることとする。なお、各接尾辞には母音調和による異形態があり、その代表形として母音の部分は大文字で表記する。

### 1. 先行研究と問題提起

一般的には動詞や形容詞を修飾する語が副詞として分類されることが多く、モンゴル語でも副詞は、動詞や形容詞を修飾する用法がある (例 1-2)。さらに副詞を修飾する用法もある (例 3)。ただし、他の形容詞や名詞にも動詞を修飾する用法が存在することや、同じ単語が「形容詞」にも「名詞」にも「副詞」にもなることが可能な用法がある。さらに、格接尾辞をとる副詞もあればとらない副詞もあり、モンゴル国科学アカデミー言語研究科 (1966) (以下では ŠUA (1966) とする) によれば格接尾辞をとらない副詞を純粋な副詞とし、格接尾辞をとりうる副詞を準副詞 (*dutmag dajvar üg*) としている。このような問題が存在するため、モンゴル語の副詞を形式と働きの両面を重視して捉える必要があることをモン

<sup>1</sup> 本論文の例文の表記は、モンゴル国のキリル文字による正書法に従い、以下のようにローマ字に転写した。

a = a, б = b, в = v, г = g, д = d, е = je, ё = jo, ж = ž, з = z, и = i, й = j, к = k, л = l, м = m, н = n, о = o, ө = ö, п = p, р = r, с = s, т = t, у = u, ү = ü, ф = f, х = x, ц = c, ч = č, ш = š, шч = šč, ь = ’, ы = y, ь = ’, э = e, ю = ju, я = ja

ゴル語の教科書である ŠUA (1966)、岡田・向井 (2006)、山越 (2012) 等が指摘している。

- (1) xurdan güj- 「速く走る」 [動詞を修飾する例]  
(2) maš sajn nom 「とてもよい本」 [形容詞を修飾する例]  
(3) dendüü ert bos- 「あまりにも早く起きる」 [副詞を修飾する例]

岡田・向井 (2006)

ŠUA (1966: 192) によると、モンゴル語の副詞はほとんどの場合文の中で述語を修飾したり述語の様態を表したりするという。さらに、述語の様態を表せるのは副詞のみではなく、副動詞、形容詞、数詞、代名詞なども表すことができると指摘しており、例 (4)<sup>2</sup> を示している。

- (4) Dorž-ijn ax xazgana-n güj-v.  
PSN-GEN 兄 足を引きずる-CVB.MOD 走る-PST  
「ドルジのお兄さんは足を引きずって走った。」

ŠUA (1966: 192)

山越 (2012: 176) はモンゴル語の副詞を一義的に定義づけることが困難であることを指摘し、従来の文法書の説明から大きく外れることを避けるため「原則として格接尾辞をとらずに動詞・形容詞を修飾する単語」を「副詞」として認めることにしている。さらに、山越 (2012) はモンゴル語の副詞の中で、もっぱら名詞のあとに用いられる後置詞的<sup>3</sup>な語がいくつかあると指摘している。山越 (2012: 180) が扱っている後置詞的副詞のうち、副動詞から由来した副詞とみられるような単語は、以下の2つの単語である。

*boltol* 「～まで (～になるまで)」 動詞 *bol-* 「なる」の限界形

- (5) Margaaš bol-tol xülee-x sanaataj.  
明日 なる-CVB.LMT 待つ-PTCP.NPST つもり  
「明日まで待つつもりです。」

*xürtel* 「～まで (～にいたるまで)」 動詞 *xür-* 「～着く、至る」の限界形

- (6) Zamyn+üüd xür-tel oč-son.  
PLN 至る-CVB.LMT 行く-PTCP.PST

<sup>2</sup> 本稿では副動詞接尾辞 -n のグロスに関しては Janhunen (2012) の記述に従って MOD: modal 「非分離」として扱う。

<sup>3</sup> 山越 (2012) は「後置詞副詞と名付けてもよいが、単独で用いられるものもあるため後置詞的副詞とする」としている。その他 Kullmann and Tserenpil (1996: 295)、梅谷 (2017: 72) なども後置詞として扱っているため、本研究も名詞の後に現れる副詞を後置詞的副詞とする。

「ザミン・ワードまで行きました。」

山越 (2012: 180)

以上の記述は全てモンゴル語の副詞に関する先行研究である。

副動詞由来の副詞に関する記述としては橋本 (2005) がある。橋本 (2005) は副動詞接尾辞 **-n** の意味・機能を分類、整理し、相互の関連性を文法化の視点から考察した研究であり、副動詞接尾辞 **-n** の動詞から副詞への文法化の要因が 2 つあると述べている。1 つ目は、後接する定形主節動詞との意味の結合度であり、つまり 2 つの動詞の表す意味の結びつきが強ければ強い程、**-n** 副動詞は副詞的機能を帯びていくという。2 つ目は、**-n** 副動詞と主節動詞の意味の関連性であり、意味の関連度が大きい程、副動詞は副詞的な機能を帯びていくと指摘している。

橋本 (2005) は次の (7,8) の例を挙げて説明している。例 (7) の「精を出す」は「勉強する」と意味上密接に関連していることが分かる。さらに例 (8) で見られるように、**-n** の接辞した副動詞の副詞化は、擬音・擬態語で顕著であるようで、副動詞は、主節動詞の動作の様子を五感に訴える形で描写する点で、意味的に強い関連性を有していると述べている。例 (7,8) のグロスや太字、下線は筆者によるものである。

- (7) Bi      zaluu baj-x                      üye-d-ee                      angli      xel-ijg  
 1SG   若い   いる-PTCP.NPST      時期-DAT-REFL      PLN      言語-ACC  
šamd-a-n                                      sur-san.  
 (仕事に) **精を出す-E-CVB.MOD**      勉強する-PTCP.PFV  
 「私は若い頃、英語を**一所懸命**に勉強しました。」

橋本 (2005: 9)

- (8) Negdügeer tsag-ijn      xičeel-ijn      xonx      žingen-e-n                      duugar-a-v.  
 第一の      時間-GEN      授業-GEN      ベル      **りんりんと鳴る-E-CVB.MOD**      鳴る-E-PST  
 「第 1 時間目の授業のベルが**りんりんと**鳴りました。」

橋本 (2005: 10)

上記のように先行研究ではモンゴル語の副詞がどのような品詞を修飾可能であるかということや副詞を定義するには形と働きの両方の面から考える必要があるということについて述べている。ŠUA (1966: 192) は、述語の様態を表すことができるのは副詞のみではなく、副動詞にもできると述べているが、それ以上の詳細を述べていない。一方、橋本 (2005) はモンゴル語の副動詞接尾辞 **-n** が副詞へ文法化し、副詞として用いられることについて指摘している。従来の先行研究は、副詞の下位分類や他の品詞から副詞に派生する方法については記述されているが、副動詞から派生する副詞 (後置詞的副詞も含む) については筆者の管見の限りでは橋本 (2005) の副動詞接尾辞 **-n** の記述が見られるのみである。そのため、本稿では副動詞接尾辞 **-n** 以外に副詞として用いられる副動詞由来のものがあるかどうか調べ、**-n** を含めてそれらの成り立つ方法や用法について考察する必要がある。

## 2. 調査

本節ではまず、2.1 節において本稿で副詞として扱う基準について、次に 2.2 節で調査方法について述べ、最後に 2.3 節で調査結果をまとめる。

### 2.1 副詞として扱う基準

上述したようにモンゴル語の副詞の一義的な定義が困難であることが従来の研究では指摘されてきた。副詞は、どんな語を修飾するかという基準からは定義しがたく、形態的にも定義しがたい。形態・統語面から定義しがたいため、本稿では小沢 (1983) に「副詞」として記載されているものを利用することとする。ただし、小沢 (1983) も副詞の定義をしているものではない点に注意されたい。

小沢 (1983) の挙げる副詞のうち副動詞由来のものを選び出し、そのうちさらに「意味の特殊化」が起こっているかどうかという観点からさらに取捨選択を行った。つまり、「意味の特殊化が起こっているもの」を本稿では副詞とみなす。具体的な動作を表し、動詞として働いている場合、意味の特殊化が起こっていないと判断する。例えば、以下の副動詞接尾辞 *-ngUUt* による例 (9) では *gar bariut* (*bariut* は *baringuut* の異形態である) は *gar bari-*「握手する」+ *-ngUUt*「握手するとすぐに」という動詞として用いられているため、意味の特殊化が起こったものと見なすことはできないため除外した。

- (9) Xongil-d gar-aad ir-tel S Erdene guaj cavxij-tel  
廊下-DAT 出る-CVB.PFV 来る-CVB.LMT PSN ~さん ピッタリ合う-CVB.LMT  
taar-a-ld-aad gar bari-ut -Za Enxbold-d-oo bajar xürge-je...  
会う-E-RCP-CVB.PFV 手 握る-CVB.SIM じゃ PSN-DAT-REFL 喜び 届く-OPT  
「廊下に出てきたら S.エルデネさんとばったりあって握手すると「じゃ、エンフボルドさんおめでとう... (後略)」

ただし、1 つの単語が元の動詞の意味を保ち副動詞として使用されたり、副詞としても使用される用例も観察された。この場合は本稿では副詞として扱うこととする。例 (12,13) を参照されたい。

以下の表 1 では、本稿の対象外とする単語を示す。*-bAl* が付された例 *zaaval*「必ず」は、副動詞の由来のものかあるいはたまたま形式が重なっただけなのかが判然としないため除外した。また、*macaxaar*, *avsaar avsaar* は辞書の意味上では意味の特殊化が行われているように思われるが、コーパスから用例がヒットせず、筆者の母語話者としての内省によると前者は「一生懸命に」、後者は「一時的に」「ひとりでに」という意味よりは、元の動詞の意味で用いられることが多いと見なした。一方、*irtel* と *bajtal* はコーパスから多数の用例をヒットしたが、そのすべては動詞の意味で使用されている。その他の単語に関しては、本稿の副詞として扱う条件に満たしていないものである。

表 1: 除外した単語リスト

動詞の意味	副詞としての意味
1. algas- 「越す」「こえる」「過ごす」	algasan 「～越えて」「～通って」
2. gar- 「出る」「現れる」「出発する」「起こる」「通る」「渡る」	garan 「～あまり」「～以上」
3. daari- 「攻撃する」「侵入する」「ぶつける」	daarin 「攻撃して」
4. sonirx- 「興味・関心をもつ」	sonirxon 「興味・関心をもって」
5. setgelčl- 「思い通りになる」	setgelčlen 「思う通りに」「思いのままに」
6. xarilc- 「関係する」「交際する」「連絡する」	xarilcan 「相互に」
7. baj- 「いる」「ある」	bajtal 「～である中に」「～であると」「～すると」
8. ir- 「来る」	irtel 「二十分に」「極めて」
9. ecest- 「終了する」「片づく」「済む」	ecesttel 「終わりまで」「最後まで」
10. bari- 「つかむ」「握る」「捕まえる」「建築する」「捧げる」	bariut 「すぐに」「直ちに」
11. zaa- 「指す」「示す」「教える」	zaaval 「義務的に」「強制的に」「必ず」「きつと」「どうしても」
12. av- 「取る」	avsaar avsaar 「一時的に」「ひとりでに」
13. mac- 「努力してのぼる・進む」「労働にはげむ」	macaxaar- 「一生懸命に」
14. jaar- 「急ぐ」「急いでやる」	jaaraxdaa 「急いだために」「至急に」

## 2.2 調査方法

2.1 節の基準で副動詞由来の副詞を収集し、用法の分析を行う。その際、小沢 (1983) は用例が不十分であるため、ウェブ上で検索可能な Mongolian National Corpus (総語数 1,160,000 語) を利用し、その抽出された用例を提示する。コーパス検索の際には、それぞれの副詞を入力し、例文を抽出する。次に、収集できた副詞の元になった動詞の意味を確認し、最後にそれらの用法の分析を行う。

## 2.3 調査結果

本調査では収集した用例を元に副動詞が「副詞句」として認められる文法的な基準と、その副詞的な用法について考えてみる。小沢 (1983) から副詞を抽出した結果、計 58 個が収集できた。その内訳は、副動詞接尾辞 *-n* による用例が 34 個、*-tal* によるものが 11 個、*-žč* と *-Aad* によるものが 3 個、*-ngUUt*, *-xAd* によるものがそれぞれ 2 個、*-bal*, *-sAAr*, *-xAAr*, によるものがそれぞれ 1 個である (表 1)。次いで小沢 (1983) から収集した副詞を基にし、副詞としての条件を満たすか否かを確認したところ、副動詞接尾辞 *-n* による用例が 28 個、*-tal* によるものが 8 個、*-žč* と *-Aad* によるものが 3 個、*-ngUUt*, *-xAd* によるものがそれぞれ 2 個、その他は 0 という結果になった (表 1)。従って、表 1 から分かるように本稿で扱う副詞は 44 個である。以下、表 2, 3 を提示する。

表 2 では、本稿で扱う全ての副動詞から派生する副詞について元の動詞の意味と副詞としての意味を示す。表 2 の動詞の意味や副詞としての意味は全て小沢 (1983) によるものであり、そのうち *danga-* 「やっとなる」のみウェブ上で検索可能な *Ix tajlbar tol'* 「モンゴル語国語辞典」によるものである。1 つの動詞に表す意味が多くある場合は 5 つまで記すこととする。

表 2: 小沢 (1983) による副詞と本稿で扱う副詞

	小沢 (1983) による副詞	本稿で扱う副詞
-n	34	28 (64%)
-tAl	11	8 (18%)
-ž/č	3	3 (7%)
-AAAd-	3	3 (7%)
-xAd	2	1(2%)
-ngUUt	2	1(2%)
-bAl	1	0
-sAAr	1	0
-xAAr	1	0
計	58	44 (100%)

表 3: 本稿で扱う単語一覧

	動詞の意味	副詞としての意味
1	až- 「注視・注目する」「注意する」「観察する」 tüž-(記載なし)	ažin tüžin 「音を立てずに」「静かに」
2	baj- 「いる」「ある」	bajn (bajn bajn) 「絶えず」「常に」「時々」「周期的に」
3	bari- 「つかむ」「握る」「捕まえる」「建築する」 「捧げる」 tavi- 「放す」「発射する」「置く」	barin tavin 「余暇に」「暇をみて」「時々」「時折」
4	güjlg-①「下痢する」②「夜間に犬などを放ちあら いぐまなどを狩らせる」③「伝達する」「伝える」 「回転さす」「流通さす」	güjlgan 「ざっと」「一通り」
5	davt-①「鍛える」「鍛錬する」「圧迫する」②「繰 り返す」	davtan 「繰り返して」「再び」
6	dagn-①「～ずっとし続ける」②「馬ぐわで耕す」 ③「質に入れる」④音楽の搬送なしで歌う	dagnan 「常に」「いつも」
7	dagt- 「泥ほこりにまみれる」「汚れる」	dagtan 「いつも」「常に」
8	dagtgana- 「ふるえる」	dagtganan 「性急に」「いらいらして」
9	daxi- 「繰り返す」「反復する」	daxin 「再び」「繰り返す」「もう一度」「倍」
10	döngö- 「なんとか・かんとかやる」「やっとやる」 「いいかげんになる」、danga- 「やっとやる」	döngön dangan 「どうにかこうにか」
11	deg- 「(馬などが)後足で立ち上がってかけようとする」 「片足ではね跳ぶ」 dogo- 「記載なし」	degen dogon 「ガタピシ」「デコボコ」
12	ij-(jaa-) 「如何にする」「どのようにする」という動 詞の重複型	ijn 「このように」「こんな風に」 ~tijn üg xelexex 「あれこれと話す」
13	ixevčl- 「ほとんど完了する」	ixevčlen 「ほとんど全部」「大部分」
14	narijvčl- 「突明する」「検査する」「入念に行く」	narijvčlan 「綿密に」「注意深く」
15	ooč- 「少しずつすすり飲む」 cooč- 「しばしば穴をあける」	oočin coočin 「あちこちの」「ここかしこに」 「ところどころに」
16	tavi- 「放す」「発射する」「置く」「固定する」 「埋葬する」	tavin 「あからさまに」「片手間に」
17	tojr- 「回る」「遠ざかる」「ぶらつく」「それる」	tojron 「周囲で」「まわりで」「付近」「そば で」
18	türgevčl 「もっと早くする」	türgevčlen 「急いで」「早く」「促進して」
19	uv- 「記載なし」 cuv- 「相次いでいく」「列になっていく」「こぼ れ落ちる」「もれる」	uvan cuvan 「相次いで別々に」「集団で」「大勢 で」
20	ulaj-①「赤くなる」「紅色になる」②「努力す る」③「告白する」 caj- 「白くなる」「白っぽくなる」	ulajn cajn 「恥知らずに」「心に恥じるところな く」
21	unž- 「乗れ下がる」「かかる」「ぶらぶらする」 sanž- 「つるす」「たらす」	unžin sanžin 「至る所に乗れさがって」

22	ür-①「摩擦する」「すりつける」②「消費する」 tar-「四散する」「終わる」	üren taran「こすられてなくなる」
23	ütr-「摩擦する」「こする」	ütren(dajrax)「遠まわしに避難する」
24	cuv-「相次いでいく」「列になっていく」「こぼれ落ちる」	cuvan「連続して」「しきりなしに」
25	evle-「和解・和睦する」「仲直りする」 xovl-「そしる」「中傷する」	evlen xovlon (ujlax)「非常に悲しんで泣く」
26	ens-「熱望する」「渴望する」 xons-「記載なし」	ensen xonson (ujlax)「哀泣する」「号泣する」
27	jaaravčl-「急ぐ」	jaaravčlan「急いで」「至急に」「とりあえず」
28	jaar-「急ぐ」「急いでやる」	jaaran「急いで」「迅速に」、~sandran「大急ぎで」「迅速に」
29	nižigen-「とどろく」「鳴る」	nižigenetel「狂暴に」「大声に」
30	nücgert「裸になる」「衣服がなくなる」	nücgertel「赤裸々に」「一糸まとわず」
31	nevšir-「だるくなる」「過度になる」「きたなくなる」	nevširtel avax「十分に買う」、~ačix「積みすぎる」 ~žančix「めった打ちにする」 ~untax「ぐっすり眠る」
32	sogt-「酔う」	sogtol「酔払うまで」
33	sevxij-「少し休んで疲れをとる」「冷える」「つめたくなる」	sevxijtel「全く」「突然に」
34	tüsxii-「どさっとする」「どさりと」	tüsgetel「がたん」「どさりと」
35	üxšr-「綿のように疲れる」「意気沮喪する」	üxširtel「堅く」「強く」「深く」
36	javxij-「ちょうどよくなる」「適合する」	javxijtel「正に」「ちょうど」「ちょうどよく」「正しく」
37	axi-①「進む」「前進する」②「繰り返す」	axiad「再び」「もう一度」
38	bajsxij-「しばらく待つ」	bajsxijgeed「しばしば」「何回も」
39	daxi-「繰り返す」「反復する」	daxiad「再び」「もう一度」
40	jav-「行く」「出掛ける」「進行する」	javuut「進行中に」「歩きながら」
41	araj「ほとんど」「少し」「やっと」 ge-「という」	arajxijž (araj gež)「やっと」「辛うじて」
42	daxi-「繰り返す」「反復する」	daxiž=daxin
43	ičil-「山積する」「群がる」 bičil-「記載なし」	ičilž bičilž「群がりうごめいて」
44	jad-「～できない」「不可能である」「苦しむ」「悩む」	jadaxdaa「不可能な時に」「迷った・困った時に」「少なくとも」「いくら悪くとも」「せいぜい」「生憎」「遺憾ながら」

上記の表2で示した副詞の用例は全て動詞を修飾しており、形容詞を修飾している用例はなかった。表2で示した副詞のうち完全に副詞として使用されるもの例(10)もあれば、副詞としても副動詞としても使用されることが可能なもの例(11,12)もある。

- (10) Orčin üje-ijn sedv-eer ixevčle-n bič-deg.  
現代 時代-GEN 題目-INS **ほとんど完了する-CVB.MOD** 書く-PTCP.HBT  
「ほとんど現代的なテーマで書いている。」

例(11)の **güjlgén** は副詞として用いられている用例であり、意味の特殊化が起こったり、具体的な動作を表したりせず、後続する動詞を修飾している。一方、例(12)の **güjlgén** は具体的な動作を表し、動詞として用いられている。

- (11) Negen axlax darga bičg-ijg güj-lge-n xar-aad busad  
一つ 優勢 指導官 書類-ACC **走る-CAUS-CVB.MOD** 見る-CVB.PFV 他  
darga=nar-t jamar neg tušaal ög-ööd «Emka» terg-en-d  
指導官=PL-DAT どんな一つ 指示 あげる-CVB.PFV エムカ 車-E-DAT

suu-ž od-o-v.  
座る-CVB.IPFV 去る-E-PST

「ある指導官が書類をざっと見ると、他の指導官たちに何か指示を出し、エムカ車に乗って立ち去った。」

(12) Zarimdaa Njamaa dal tül-ž, jesön zoos **güj-lge-n**  
時々 PSN 肩 燃やす-CVB.IPFV 九 コイン 走る-CAUS-CVB.MOD  
mergele-ž ög-dög baj-laa.  
占う-CVB.IPFV あげる-PTCP.HBT ある-PST

「時々、ニャマーは家畜の肩甲骨を燃やし、9個のコインを並べて占ってくれていたっけ。」

### 3. 考察

本節では副動詞に由来する副詞のうち本稿の副詞として扱う条件を満たしているもの(表2の単語一覧)のみ扱い、それらの表す意味や成り立つ方法などについて詳細に述べる。その際、まず形式面での使用上の特徴を考え、その次に意味面で分類することを試みる。

#### 3.1 副動詞から派生する副詞の形式的特徴

本稿で扱う副詞の中で、重複型ペアの副詞が数多く観察された。そのうち、音韻交代を伴う重複型ペアが8個であり、完全重複型ペアが1個である。

##### ① 音韻交代を伴う重複型ペア副詞

以下の8個の副詞は全て音韻交代を伴う重複型ペアである。その内、位置を変えられるペアと位置を変えられないペアがある。

位置を変えられないペア : *ažin tüžin* 「音を立てずに」「静かに」、*döngön dangan* 「どうにかこうにか」「なんとかかんとか」、*degen dogon* 「ガタピシ」「デコボコ」、*oočin coočin* 「あちこちの」「ここかしこに」「ところどころに」、*ensen xonson ujlax* 「哀泣する」「号泣する」、*ičilž bičilž* 「群がりうごめいて」、*unžin sanžin* 「至る所に乗れさがって」

上記ペアのいずれも単語の位置を変えることが不可能であり、この順番でこそ慣用句的な表現として定着しているように思われる。

(13) Olon nom delge-čix-eed **ooč-i-n**  
たくさん 本 開く-PFV-CVB.PFV 少しずつ飲む-E-CVB.MOD  
**cooč-i-n** unš-i-v.  
しばしば穴をあける-E-CVB.MOD 読む-E-PST  
「たくさんの本を開いてあっちこちから読んだ。」



### 3.2 副動詞から派生する副詞の表す意味

本稿で扱う副詞を意味面から以下のように頻度を表す副詞と状態を表す副詞という2つに分類する。

#### ① 頻度を表す

以下の副詞は全て頻度を表しているが、そのうち *ixevčle-* 「ほとんど完了する」、*bajxsij-* 「しばらく待つ」の以外は本来の動詞の意味「繰り返す」「もう一度」といった意味を表す。完全重複型副詞 *bajn bajn* も重複されることで「繰り返す」という意味を表す。

*dagnan* 「常に」「いつも」、*dagtan* 「いつも」「常に」、*davtan* 「繰り返して」「再び」、*daxin* 「再び」「繰り返す」「もう一度」「倍」、*ixevčlen* 「ほとんど全部」「大部分」、*axiad* 「再び」「もう一度」、*bajxsijgeed* 「しばしば」「何回も」、*daxiad* 「再び」「もう一度」、*bajn bajn* 「何度も」

(18) ...zövxön xokkjej-n sport-oor dagna-n xičeelle-deg,  
 ただ ホッケー-CVB.MOD スポーツ-INS 常に行う-CVB.MOD 習う-PTCP.HBT  
 alban jos-ny bürtgel-tej 545363 toglogč baj-dag ge-ne.  
 公式 習慣-GEN 登録-PROP 545363 選手 ある-PTCP.HBT という-NPST  
 「アイスホッケーのみを常に習っている正式に登録された 545363 人の選手がいる  
 そうだ。」

(19) Sul šoroo-n deer jav-a-xad nileed berxšeel-tej baj-san  
 もろい 土壌-GEN 上 行く-E-MOM かなり 困難-PROP ある-PTCP.PFV  
 tul bajxsij-g-eed=l amar-na.  
 なので しばらく待つ-E-CVB.PFV=FP 休む-NPST  
 「もろい土壌の上に歩くとかなり大変だったので何度も休む。」

#### ② 動作の状態や速さなどの状態を表す

① で示した頻度を表す副詞以外は状態を表す副詞になる。つまり、44 個の副詞のうち 35 個が状態副詞である。*-tAI* が表しうる意味には、大きく分けて2つある (*-tAI* が複数の意味を表しうることについては Kullmann and Tserenpil (1996: 167), Janhunen (2012: 167) など多くの先行研究で指摘されている。「～まで」という意味と、「～すると、～するや否や」という意味である)。ただし、本稿で扱っている全ての用例は「～まで」という意味で使用されており、全て状態を表す副詞として分けられる。さらに状態副詞には擬声語、擬態語も含まれる (3.4 を参照されたい)。

(20) Arxi, sogtuur-uul-a-x undaa-g neg udaa sogt-tol  
 酒 酔わせる-CAUS-E-PTCP.NPST ドリンク-ACC 一つ 回 酔っぱらう-CVB.LMT

uu-x                      üje-d    8000-20000    medrel-iin    es    gemt-e-ž,  
 飲む-PTCP.NPST    時-DAT    8000-20000    感覚-GEN    細胞    損傷する-E-CVB.IPFV  
 erge-ž                      nöx-ö-n                      tölž-dög-güj.  
 回る-CVB.IPFV    補う-E-CVB.MOD    増える-PTCP.HBT-NEG

「酒やアルコールドリンクを一回酔っぱらうまで飲むと 8000～20000 の神経細胞が損傷し、二度と増殖しない。」

- (21) Xel urtad-saar                      xüzüü    oroo-no    ge-deg                      üg-ijg  
 舌 長すぎる-CVB.COND    首    巻く-NPST    という-PTCP.HBT    言葉-ACC  
üxšir-tel                                      barimtal-na.  
 綿のように疲れる-CVB.LMT    守る-NPST  
 「口数が多すぎると後で困るのだという言葉をちゃんと守る。」

- (22) Narijvčl-a-n                      šalga-x.  
 細かくする-E-CVB.MOD    調べる-PTCP.NPST  
 「入念に検査する。」

### 3.3 類義語型と反義語型の副詞

意味的に似たような動詞（類義語）のペアと反対の動詞（反義語）のペアの単語がそれぞれ3つあった。

類義語: *unž-*「垂れ下がる」+*sanž-*「たらす」=*unžin sanžin*「揺れていること」  
*uv-*「相次ぐ」+*cuv-*「相次ぐ」=*uvan cuvan*「相次いで別々に」「集団で」「大勢で」  
*döngö-*「なんとか・かんとかやる」+*danga-*「やっとやる」=*döngön dangan*「どうにかこうにか」

反義語: *bari-*「持つ」+*tavi-*「放す」=*barin tavin*「余暇に」「暇をみて」「時々」「時折」、  
*evle-*「和解・和睦する」+*xovlo-*「そしる」「中傷する」=*evlen xovlon ujilax*「非常に悲しんで泣く」  
*ulaj-*①「赤くなる」「紅色になる」②「努力する」③「告白する」+*caj-*「白くなる」  
 「白っぽくなる」=*ulajn cajn*「恥知らずに」「心に恥じるどころなく」

これらの副詞の特徴は、ペアで使用されることで副詞的な意味を表すことである。つまり、ペアではなく単独の単語は副詞的な意味になることができず、副動詞の意味で使用される。下記で示した *barin tavin* の場合は、小沢 (1983) に記載されていない意味の用例が観察された (例 23)。

- (23) Ülger    xeveer-ee    baj-g-aasaj    ge-tel                      **barin**                      **tavin**  
 物語り    そのまま-REF    ある-E-DES    という-CVB.LMT    持つ-CVB.MOD    放す-CVB.MOD

ünen jum bol-čix-no.  
 真実 もの なる-PFV-NPST

「おとぎ話であってほしいと思うが、明白な真実である。」

### 3.4 擬音語・擬態語動詞由来の副詞

擬音語・擬態語動詞由来の副詞は **-tAI** によって形成されている。具体的な動作を表さず、後続する動詞の様子を表している。

*nižigenetel* 「狂暴に」「大声に」、*tüsgetel* 「がたん」「どさりと」、*sevxiitel* 「全く」「突然に」

(24) Ter=eer us-aa sevxiitel örgö-ž üür-eed  
 3SG.NOM=INS 水-REFL 冷える-CVB.LMT 持ち上げる-CVB.IPFV 背負う-CVB.PFV  
 minij aja-yg daga-agüj-d-ee gemš-sen met: (後略)  
 1SG-GEN 状況-ACC 従う-PST.NEG-DAT-REFL 後悔-NPST.PFV のように  
 「彼は水をさっと持ち上げて背負って、私の言った通りにしなかったことを後悔したかのように (後略)」

橋本 (2005) は、すでに **-n** の接辞した副動詞の副詞化は、擬音・擬態語で顕著であることを指摘している。例 (8) を参照されたい。

## 4. まとめと今後の課題

本稿ではモンゴル語の副動詞から派生する計 44 個の副詞を対象に考察を行った。そのうち 28 個の副詞、すなわち 64% の割合を示しているのが **-n** によるものであることが分かった。本来 **-n** はかなり文法化したものであり、日常的な会話ではほとんど使用されないという特徴がある。ということは、**-n** が付加された副動詞は文法化し、その全てが副詞になれると言っても過言ではないように思われる。自明のことだが副動詞としても使用されることがないというわけではない。その次に、**-tAI** によって形成される副詞が 8 個/18% を占める。その全てが「～まで」という意味で使用されており、動作の程度や状態を表している。すでに先行研究で指摘されたように、**-tAI** や擬音語・擬態語動詞の組み合わせが副詞の力を多少持っていると考えられる。

最後に、重複型の副詞がいくつか観察され、音韻交代を伴う重複型ペアと完全重複型ペアという 2 種類のペアが存在することが分かった。その全てが **-n** によるものであった。さらに、類義語型と反義語型のペアの副詞も存在することが明らかになった。本稿ではそのような副詞の数が少なかったが、筆者の母語話者としての内省によるとこのような方法で成り立った副詞が他にも多数存在すると思われる。

今回はモンゴル語の副動詞から派生する副詞としていくつかの単語のみを対象にしたため、今後はより多くの副詞を対象とする定量的な調査を行いたい。

## 略号一覧

-: suffix boundary, =: clitic boundary, +: word boundaries within compound words 1: 1st person, 3: 3rd person, ABL: ablative, ACC: accusative, CAUS: causative, COM: comitative, COND: conditional, CVB: converb, DAT: dative, DES:desirous, E: epenthesis, FP: focus particle, GEN: genitive, HBT: habitual, INS: instrumental, IPFV: imperfective, LMT: limitation, MOD: modal, MOM: moment, NEG: negative, NPST: non-past, OPT: optative, PFV: perfective, PL: plural, PLN: place name, POSS: possessive, PROP: proprietary, PSN: personal name, PST: past, PTCP: participle, PUR: purpose, RCP: reciprocal, REFL: reflexive, SFP: sentence-final particle, SG: singular, SIM: simultaneous

## 参考文献

- 橋本邦彦 (2005) 「モンゴル語融合形副動詞接尾辞-n の文法化」『一般言語学論叢』8: 1-20
- Janhunen, Juha A. (2012) *Mongolian*. London Oriental and African Language Library 19. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- Kullmann, Rita & D. Tserenpil (1996) *Mongolian Grammar*. Hong Kong: Jenco.
- 小沢重男 (1983) 『現代モンゴル語辞典 改訂増補版』東京：大学書林.
- 岡田和行・向井晋一 (2006) 「東外大言語モジュール:モンゴル語文法モジュール (標準コース Lesson 6, Step 1.形容詞と副詞 [解説])  
<https://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/mn/gmod/courses/c02/lesson06/step1/explanation/011.html>
- Šinžlex Uxaany Akadjemi Xel zoxiolyn xüreelen (1966) *Orčin cagijn mongol xel zūj*. Ulaanbaatar: Ulsyn xeveleijn xereg erxlex xoroo.
- 梅谷博之 (2017) 「モンゴル語の副動詞語尾 -tal の後に現れる接尾辞 -x に関する覚え書き」『北方言語研究』7: 69-81
- 山越康裕 (2012) 『詳しくわかるモンゴル語文法』東京：白水社.

## 調査資料

Mongolian National Corpus (web-corpora.net) 最終閲覧日 2023/12/15  
<https://mongoltoli.mn/>最終閲覧日 2023/12/15

## Adverbial Usage of Converbs in Modern Khalkha Mongolian

Lkhagvajav NAMDAG  
(Tokyo University of Foreign Studies)

Keywords: Mongolian, adverb, converb, reduplicated adverbs grammaticalization

This paper discusses adverbs derived from Mongolian converbs. According to the survey results, the adverbial suffix that is most easily grammaticalized into an adverb is *-n*, followed by *-tal*. It is not an exaggeration to say that the other adverbial suffixes are rarely grammaticalized into adverbs.

Finally, two types of pairs were found to exist: reduplicated adverbs with phonological alternation by *-n* and fully reduplicated paired adverbs. A part from this, it became clear that synonymic and antonymic pairs with *-n* can also become adverbs.

Since only a few words were covered in this study as adverbs derived from Mongolian converbs, a quantitative survey of a larger number of adverbs will be conducted in the future.

(ナムダグ・ハグバジヤブ lkhaagii89@gmail.com)